

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷十第

行發日一月五年九正大

論 說

財産税と租税給付能力……………法學博士 神戸 正雄

Jan de Witt に就て(一)……………法學博士 財部 靜治

鎌倉時代の家族制度(四)……………文學博士 三浦 周行

時事問題

米國の日本移民問題……………法學博士 戸田 海市

加州土地問題に就て……………法學博士 神戸 正雄

雜 錄

船舶能力の發達……………法學士 小島昌太郎

株式の分布と課税……………法學士 汐見 三郎

手形交換所制度論(三完)……………法學士 大森 研造

好景氣の反動と物價……………法學博士 神戸 正雄

好景氣の反動と物價

神戸 正雄

(一)
好景氣最高潮に達すれば臆がて恐慌を生じ次いで不景氣時代を齎らすといふことは、從來屢屢繰返へされたことであつて、營業者としては豫め之に用心すべきことであるが、兎角人間には慾があるからしてつひ、まだ最高潮には達せずとして、又は際限もなく好況となるが如くにも誤解を爲して浮調子になり、往く所まで往つて初めて目の覺めるものである。最近の恐慌の如きも既に昨年暮からして識者には此事あるべきことの豫期さるゝ所であつた。が併し

當時當業者に聞けば人氣は一向左様の様子なしといふて居つた。然るに今年初以來輸入超過著しく、既に三月末までに二億六千萬に上り、正價の減少亦一億八千萬と稱せられ、他方企業の勃興其極に達して、三月までにて二十億にも上ばるといふに於ては、如何に最負目に見ても、もう行詰まるべき時の來るであらうと思はれたが、

果せるかな、此四月上旬に入つて増田銀行の交換尻の始末の出來ざることとなりて、其を動機として先づ株式の大暴落となり、其を手始めとして綿絲布も生絲も米も亦引續き下ることとなつた。他方各地機業者の生産減縮が起り、米其他の物の小賣相場は未だ多く下るに至らず却つて尙上るものさへあるけれども、併し既にポツ／＼と下げ初めたものが出て來つゝある。他方工場の閉鎖又は労働者の解雇の行はるゝものも段々と増加して、漸く失業者を生じかけても來た。まだ／＼米の下り方が少いけれども、此も追々と株式を握つた地方民が、其値下りと金融の梗塞とに攻められて勢ひ米を賣放つものゝ

増加することゝもなれば、自ら、もつ／＼米が下落するであらうし、其處で農民が狼狽して賣り掛けると、場合によつては急轉直下せぬとも限らない。處で斯の如くにして米が眞に大暴落にでもなつたら、其時こそは我邦の景氣は丸で一變しなければならぬ。

(二)

一體、此動亂を生じ又は生せんとした動機は何かといへば先づ企業の勃興が其極に達し、隨ふて銀行が怪しげなる事業又は株に金を融通して爲めに約束の時に金の回收の出來なくなつたといふに在る。一體近頃起りつゝある會社が皆豫定の如く事業に着手したとすれば、何處から其融通の資金が得らるゝといふのであらうか。固より信用なるものは屈伸力あるもの故、或度までは之にも應じ得る。又對外關係上我正貨が益々増加するといふ時の如きには、將來のことをも見越して信用を擴張し得る。夫の基礎の上に其が出来る。それから物價の益々上りつゝある場合には銀行預金も自ら増加して、其からし

ても信用の擴張を助ける。然るに一朝にして正貨減少信用の基礎薄弱とならんとするの兆現はれ、更らには物價の下落するものあり又は下落せんとする兆の現はるゝに於ては、銀行としては信用を緊縮するの外はない。日本の最近の經濟界は正さに之を示し來つたので、前にもいふ如く輸入の大超過、正貨の大減少、そして其反面に物價の下落せざるを得ざるの勢を示すに於て銀行としては最早信用緊縮に出でなければならぬ。然るに他方企業家投機者は前來の物價騰貴の勢に乗じて、益々事業を起し金を注ぎ込みつゝ、あつたが、中には全く算盤に合はぬものにもさへも金を注ぎ込むことになつて居た。其が取れなくなつて一銀行が不支拂を爲すと、之に貸した他の銀行にも累を及ぼすこととなる。此方は或は救濟されても他の銀行は今更らながら各事業の基礎に疑をいだきて、之に向て貸出を引締めることとなる。然るときは却つて益々救濟を求むるものを増加する。斯くて人氣が腐るのみならず、金融が各方面に引締められることと

なつて、此迄商品につき及證券につき投機しつゝ、あつた者は金融上益々苦しめられ、先づ株の買手はなくなり、賣物は嵩む。益々下落するの外ない。既に株が下がれば商品投機者の金融上の擔保もが減少することになるから、其が増擔保を促されることになり、勢ひ彼等の買占め又は賣惜みたる品物をも投出さなければならなくなる。斯くて米も糸布も其他の商品も下落の大勢を生じなければならぬ。

(三)

斯くて一體に物價の下落を生ずることになると思ふが、併し小賣相場は卸賣市價の下落に直ちに伴ふことはない。多少後れてポツ／＼下るものである。小賣人は其仕入値段の高きこと并に營業費の嵩んで居ることを考慮するから、容易には下げない。勿論奢侈的の物品にあつては損しても下げなければならぬことになるが、生活必需品であると、高くてもさう賣れなくなるといふ程でないから、出來るだけ永く高い値を維持して行くことになる。特に今日の小賣商人

の間にも相當組合があつて、相當に力強き團結を成して居るから、高い値を割合に永く維持することゝもなる。併し此場合でも既に其物の卸値が著しく下り、そして他方一般物價の下落があり、各事業の利益が薄くなり、失業者が生じ勞賃も減るといふことになれば、生活必需品に對する需要と雖も自ら多少減縮しなければならぬ。斯くて小賣人も勢ひ次第に相當の處まで賣價を下げなければならなくなるし、又下けても差支なくもなる。

(四)

偕て又此物價の下落といふことが際限なく起るかといふと、さういふことは多分ない。一時は人氣と金融との二大勢力により非常に下の方へ持行かるゝこともあらうが、此二の勢力の中につきても金融の方は日本でも此大戰爭の結果として相當に大な實力が出来て居るからして、其力の運用如何により即ち銀行の遣方一つでさうドン底まで物價を落すには至るまいと思ふ。又其れ程にすべきものでもない。其に至るの前

に喰止めなければならぬ。然らば何の邊に落つるのが相當かといへば我邦の物價の水準が歐米の平均率の處まで來るのが相當と思ふ。當局者は即ち此を標準として施設を爲すべきである。元來昨年の下半以來の日本の物價が此世界的水準を超ゆるに至つたのが抑々禍の本である。既に當時よりして極力其處に喰止めることをすべきであつたのに、其方の努力の足らなかつたのは今更ら詮なしとして、今後の下落の夫の水準以下にもなるのに對しては之を喰止めなければならぬ。然るときは俸給生活者に取りては片手落の嫌があるが、其代り彼等が物價變動により不利となれるだけでは、思ひ切つて彼等の増俸を行つて相當だけの待遇を行ふことゝすべきである。それで此方は良しとして。若も此物價の異常下落を喰止めなければ農商工業者勞動者の間に失業者破産者が多く生じて社會を擾亂することゝもなるであらう。

(五)

夫の異常なる物價騰貴を生じて好景氣に酔は

したことは、其當時に於ては酔へる人民に取りて愉快であつたであらうが、偕て酔が醒め、頭が痛み出して見れば、此は又其人にとりては甚だ不幸である。其は彼等が酒を飲みたることの報ひでもあらうが、又飲ませたる人の罪もが輕くはない。飲ませたる人の責任としても之が救済に當らなくてはならぬ。其につけても失業救済は場合により可なり難問題であらう。其救済を等閑にするといふと、好景氣時代の賃金値上

勞働時間減少等に關聯する同盟罷工の場合と異り、此方は衣食の途の有無に關するのであるから大なる擾亂を爲すことゝもなる。其れに他方役人階級の増俸も不満足の儘であれば、此と彼と結んで騒ぐといふことゝもなる。一步過れば重大なる事件を引起す。特に失業救済としても日本では海外移民に依ることの困難なる事情があり、各地各業の間の勞働の配給を甘くしやうといふても際限のあることであり、都市計畫其他の土木事業を起して收容しやうといふても此も際限のあることであり、都會勞働者の歸農と

いふても一旦都會化したる者の歸農は困難であらうし、揚合によりては随分紛糾することであらうと思ふ。

(六)

右勞働問題の困難も物價の異常に下落するに於て特に重大なるものとなるから、相當の處に物價を喰止めるといふことは此點からしても注意しなければならぬ。其には何うしても金融上の活動を要する。此金融が商人の投機を助長する爲めに働くのは決して良くはないが、其の恐慌を生じ、産業及社會上大混亂を生じやうといふに對し之を防止するのは全く良きことである。固より此際凡べての者を救済するといふことは出来ない。人につき、事業につき、擔保たる物につき玉石を鑑別して確實なる者には假令高利とはいへ相當に融通して、確なるものまで渦中に巻き込まれざるやう、又過當に物價の下らざるやうに援助しなければならぬ。そして此には單に日本銀行のみの方で凡べてを解決し得るものではない。矢張り全國に亘りたる各

銀行も、出来るだけ聯絡を採り、若ば、同一標準同一方針を定めてかゝらなければならぬ。此點になると日本の銀行界の如く小銀行分立の勢の盛なる處では隨分行はれ難きことがあらう。で固より其に多きを望むことは出来ないが、日本銀行の威力を以て相當有力なる銀行の間にても協定させることだけは出来やうと思ふ。但し其を以て信用乏しき者にも安心を與えて相も變らず投機に耽らしむることゝならざるやうにしないでならぬ。他面商人に於ても生産者に於ても、組合を成して其力を以て餘り投賣をせざるやうにし、又は此信用により金融の助力を一層多く受けることゝするのは目的を達するに於て好都合であらう。

(七)
色々の物の中に就きても特に米に關しては、若も此が萬一大暴落を告ぐることがあつて、例之此が三十圓以下にでもなるならば、政府としては之を買上げて常平倉の制度を確立すべきである。そして他日米の缺乏を告げ大暴騰を生ず

る時に備ふるが良し。之が爲めには相當に大きな公債を起すのも辭すべきではない。近年米價調節の爲めに國庫が非常なる犠牲を拂ひ來りたることを想ふときは、其等の事業は當然辭すべきことではない。夫の米價の益々騰貴するときに之を政策により制することは甚だ難かつた。之を制しやうとしても、制しやうとして色々の事をすればするほど人々は米を吝しみ米を隱匿して益々米價を上らしむることゝなる。併し此が一朝下落し出して賣物が殺倒するが如き場合には政府の如き大きな力で之が買に出れば、大抵喰止めることが出来る。幸にして此の如き時機があつたならば、進んで百年の大計の土臺を作るべきである。

(八)
併し醜て考ふれば、米價も近くそんなに下ることにはあるまい。何せかといへば、米は確かに田舎には相當に澤山ある。たゞ今日まで人氣と特に金融とで米價を維持して來たが、今や人氣も悪くなり、金融も詰つたから、農民も地主も

多少は賣出すことになつた。特に株式に手を出した者の如きは最も弱くなつて來たが、併し他面に彼等にして株に關係せず其他思惑にも耽らず、眞面目な貯蓄又は放資を爲して來た分子も少くなく、特に彼等の間に米の販賣上の組合の可なり良く發達して居るものも少くないから彼等が近く相率ゐて賣出すが如きことはなからうと思はるゝからである。唯だ田舎の人々の爲めに目下一つ困つたことは生絲の市價の安いことであるが、此とて近頃の暴騰相場に比してこそ安けれ、最近年の平均相場から見れば矢張り高いのであつて、此も夫の過高の相場では米國が買控えるけれども、相當の値段になれば彼も買はなければならなくなるであらう。特に米國も假令近時の對歐貿易關係よりの經濟不振、并に今年秋に於ける大統領選舉等惡材料を持つては居るが、他方、禁酒の結果としての絹物需要の増加、それに支那よりの輸入を以て日本品に代らしめやうとしても、其がさう急激には之に應ずるに足らぬといふこともあるから、

餘り多く日本として悲觀するに及ばぬ。米にせよ生絲にせよ過高の値段を夢想するは全く誤であるが併し去りとて其の極端に下るなごいふことは決して心配には及ばない。